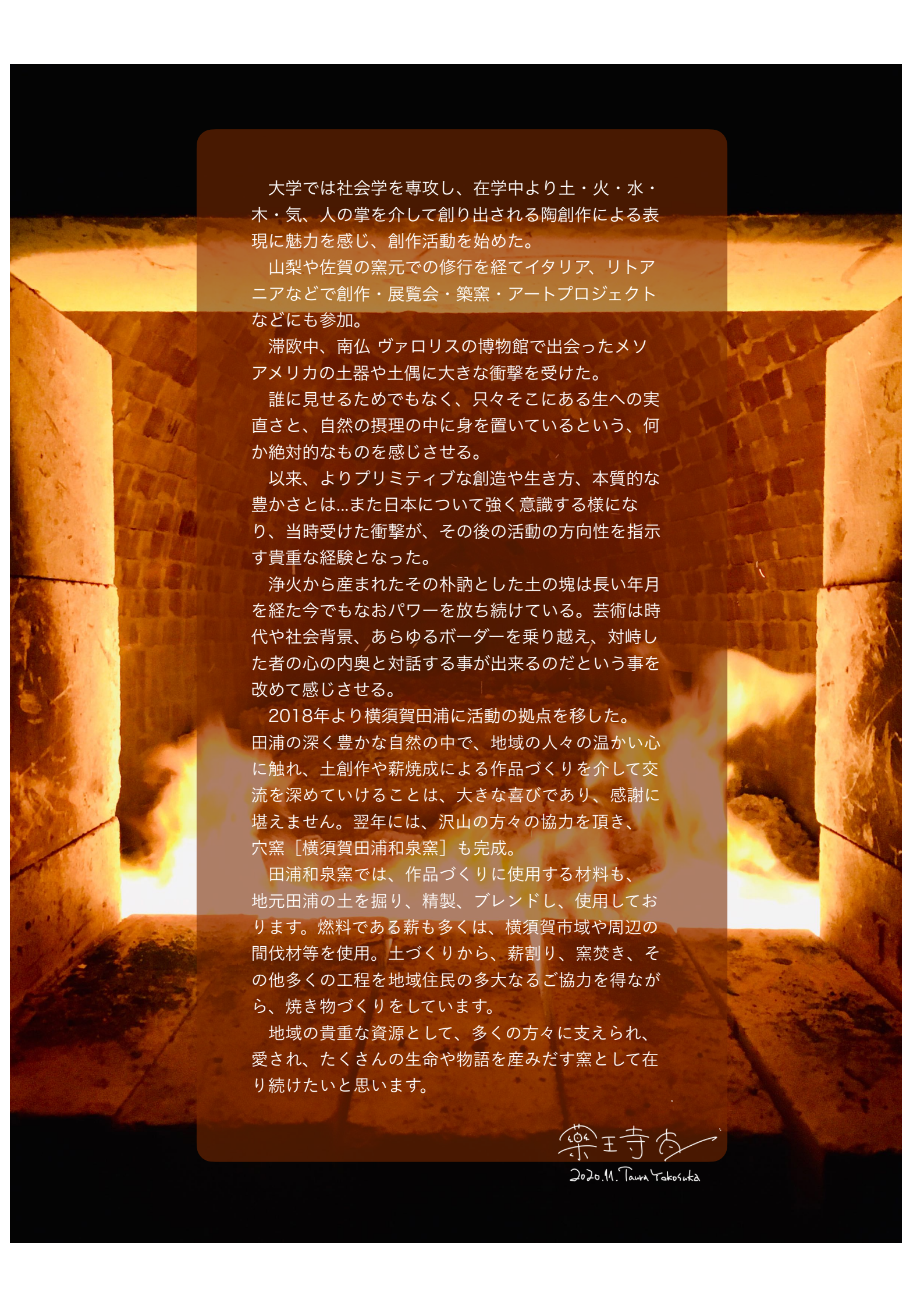




大学では社会学を専攻し、在学中より土・火・水・木・気、人の掌を介して創り出される陶創作による表現に魅力を感じ、創作活動を始めた。

山梨や佐賀の窯元での修行を経てイタリア、リトアニアなどで創作・展覧会・築窯・アートプロジェクトなどにも参加。

滞欧中、南仏 ヴァロリスの博物館で出会ったメソアメリカの土器や土偶に大きな衝撃を受けた。

誰に見せるためでもなく、只々そこにある生への実直さと、自然の摂理の中に身を置いているという、何か絶対的なものを感じさせる。

以来、よりプリミティブな創造や生き方、本質的な豊かさとは...また日本について強く意識する様になり、当時受けた衝撃が、その後の活動の方向性を指示す貴重な経験となった。

浄火から産まれたその朴訥とした土の塊は長い年月を経た今でもなおパワーを放ち続けている。芸術は時代や社会背景、あらゆるボーダーを乗り越え、対峙した者の心の内奥と対話する事が出来るのだという事を改めて感じさせる。

2018年より横須賀田浦に活動の拠点を移した。田浦の深く豊かな自然の中で、地域の人々の温かい心に触れ、土創作や薪焼成による作品づくりを介して交流を深めていけることは、大きな喜びであり、感謝に堪えません。翌年には、沢山の方々の協力を頂き、穴窯〔横須賀田浦和泉窯〕も完成。

田浦和泉窯では、作品づくりに使用する材料も、地元田浦の土を掘り、精製、ブレンドし、使用しております。燃料である薪も多くは、横須賀市域や周辺の間伐材等を使用。土づくりから、薪割り、窯焚き、その他多くの工程を地域住民の多大なるご協力を得ながら、焼き物づくりをしています。

地域の貴重な資源として、多くの方々に支えられ、愛され、たくさんの生命や物語を産みだす窯として在り続けたいと思います。

楽王寺

2020.11. Tawara Takosuka